

安倍外交の課題



川上高司

● 5 ●

「安倍外交」にとって最大の課題は、中国との戦略的駆け引きに勝利することである。

中国は最近、「米中関係の悪化」「日米同盟の強化」「南シナ海問題での反中連合の形成」など劣勢に見える。だが、冷静に分析すれば、中国は「考えられないことを考

える」大胆な外交政策を展開し、米国中心のハブ・スポーク型の同盟関係を切り崩して

習近平国家主席は10月20

日、エリザベス英女王と一緒に馬車に乗って「英中黄金(蜜月)時代」を演出し、米英同盟に亀裂を入れた。

中国の国家主席が訪英したのは、実に10年ぶりである。原子力発電所や高速鉄道の建設協力など、総額400億(約7兆4884億円)のチャイナマネーを土産に、破格の厚遇を受けた。キャメロン英首相は、

中国との関係は経済分野だけで、米国との関係に影響はないとコメントする。だが、中国はシワジワと英国を米国から引きはがすだろう。人民元の

中国とグレート・ゲームはどう勝つか

中国の野望に、安倍首相(円内)は、うのか立ち向かうか(新華社一共同)



国際化にも道を開いた。習氏は7日、台湾の馬英九総統とも首脳会談を行い、米台関係を傷つけた。中台のトップ会談は6年ぶりという。

中国にとって台湾は、地政学的に第一列島線(九州を起点に、沖縄、台湾、フィリピン、ボルネオ島にいたる対米国防ライン)上にある「核心的利益」である。台湾を取れば、太平洋に

日本の存亡かけた駆け引き

両首脳は「一つの中国」という原則を確認し、中台関係の歴史的な進展を演出した。中国の狙いは、時間をかけて台湾を平和裏に吸収することだ。近年、対岸の福建省とは経済的な結びつきが深化している。来年1月の台湾総統選では、馬

かわかみ・たかし 1955年、熊本県生まれ。拓殖大学海外事情研究所所長。大阪大学博士(国際公共政策)。フレッチャースクール外交政策研究所研究員。世界平和研究所研究員、防衛庁防衛研究所主任研究官などを経て現職。著書に『アメリカ世界を読む』(創成社)、『無極化』時代の日米同盟(ミネルヴァ書房)など。

お店でもネットでも安心ヨドバシカメラ

ク、ハドソン研究所の創設者、ハーマン・カーン氏は冷戦全盛期に『考えられないことを考える』(ぺりかん社)との名著

を打ち出せることが可能となる。打って出ることが可能と

安倍晋三政権は、世界規模で駆け引きが活発化する、米国と中国との「グレート・ゲーム」に、どのように関与していくのか。日本の存亡をかけた外交の駆け引きがスタートしている。

おわり